

紅型とサンゴ染めの工房
「首里琉染」

首里琉染は、昭和四十八年、沖縄の染色文化の発展を目的とした草木染研究所として染人・山岡古都氏が創立した工房です。

紅型の染色の質の向上に大きく貢献した経緯から、Zエネ大河ドラマ「琉球の風や、炎立つ」の衣装提供をはじめ沖縄の古式行列「御新下り(ウワーラウリ)」、「冊封使(中国の使節団)」の衣装制作も行いました。

サンゴの模様を活かし、赤、黄、青、紫の四色で拓本技法により染める「サンゴ染め」は、その独特の文様や優しい色使いが高く評価され、沖縄の優良県産品として推奨されています。

工房では、紅型制作の見学やサンゴ染め体験(要予約)も開催しています。



首里琉染 那覇市首里山川町1-54
電話(098)886-1131

沖縄の染織工芸を指導して五〇年
「首里高校染織デザイン科」

首里高校染織デザイン科は、沖縄の伝統的な染織工芸の伝習を目的に昭和三十三年首里高校工芸科として設置され、復帰と同時に現在の科名となりました。その専門的な学習内容は内外から高い評価を受け、数多くの優秀な卒業生も輩出しています。

今年、開設五〇年を迎えた同校では、より多くの後輩達に教育課程や学習内容を知ってもらおうと、去った七月二十八日に初の体験入学を開催しました。当日は予定を大幅に上回る中学生が参加し、紅型の色差しや、織りを体験しました。手仕事が見直されはじめた今、染織を本格的に学びたいと言う中学生の眼差しは真剣そのものでした。



▲在校生の指導のもと、エコバックに紅型の色差しを体験。



機織りも体験▶

首里城公園
「書院・鎖之間庭園」を復元



一般公開された「書院・鎖之間庭園」

昨年復元された首里城内書院・鎖之間の庭園復元工事が終わり、八月一日から一般公開が始まりました。書院は国王が日常の執務を行った建物であり、中国からの冊封使や薩摩役人を接待した施設。鎖之間は王子などの控所であり、また諸役の者たちを招き懇談する施設だったといわれています。

庭園は書院・鎖之間と一体をなす重要なもので、城内唯一の本格的な庭園です。沖縄県内のグスクの中で庭園が確認されたのは首里城のみで、琉球石灰岩をたくみに利用した造りになっています。

首里城を見学する時には、ぜひご鑑賞ください。

首里城公園
「図画・フォトコンテスト」作品募集

■募集期間
平成二十年七月十一日～九月二十二日当日消印有効

■募集対象作品
平成十九年十月一日～平成二十年九月二十一日までに描かれた絵画、又は撮影された写真。

■応募のあて先・お問合せ先
〒901-2127
浦添市屋富祖3-7-1名嘉ビル4F
株インディペンデントネットワークス
「首里城図画・フォトコンテスト」係
TEL098-870-5688
受付時間/月～金(午前十時～午後六時)



首里城公園管理センター TEL098-886-2020
URL http://shurijo.com/

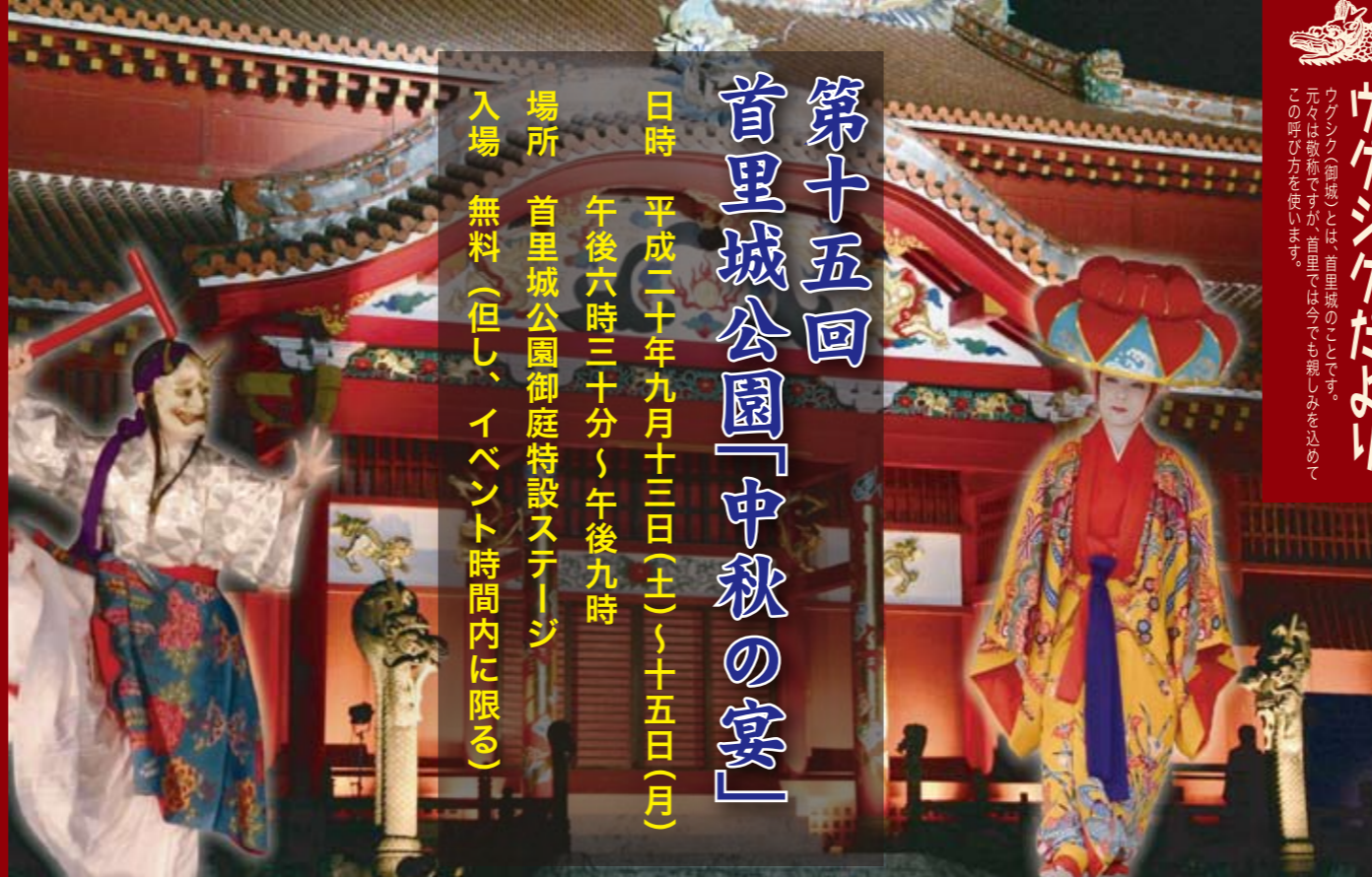
協力機関行事案内

- ◆那覇市歴史博物館
企画展「比嘉清真写真展～ハジチのある風景～」
会期：8/15(金)～10/1(水)
- ◆沖縄県立博物館・美術館
展覧会「しまくとぅば～未来へつなぐアート展」
会期：9/9(火)～10/5(日)
- ◆沖縄県立博物館・美術館企画ギャラリー1・2
講演会「グスクから語る沖縄経済社会」(入場無料)
10/22(水) 18:30～20:00 (講師：北原秋一)
場所：沖縄県立博物館 講堂

首里地区の行事・イベント情報

- ◆平成20年度「十五夜獅子舞」(汀良町)
9月13日(土)
ウ願 11:00(ウ願ヌ毛) マチマーイ12:00(町内各地)
十五夜獅子舞19:00(自治ふれあい館前広場)
お問合せ：十五夜獅子舞保存会(儀間常公：884-2081)
- ◆首里公民館・平成20年度那覇市首里公民館主催家庭教育学級(県民力レッシュ連携講座)
『正しい「食」の知識を学ぼう』開級のお知らせ
9/12～10/10、5回実施(首里公民館：891-3445)
- ◆首里城祭
10/24(金)～11/3(月)

ウグシクダロイ
「元々は琉球アサギ(首里)のウグシクダロイ」
この呼び方を使います。

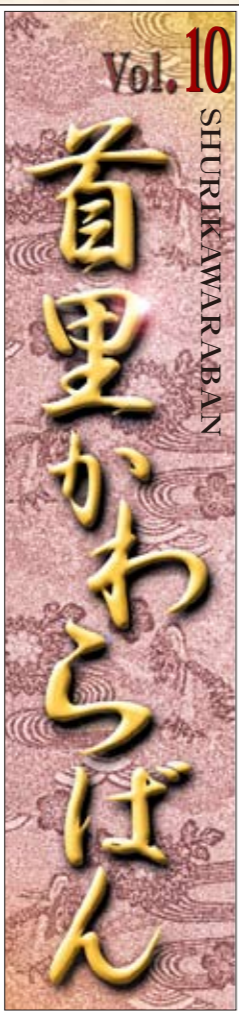


第十五回
首里城公園「中秋の宴」

日時 平成二十年九月十三日(土)～十五日(月)

午後六時三十分～午後九時

場所 首里城公園御庭特設ステージ
入場 無料(但し、イベント時間内に限る)



首里には、かつての王都として落ち着きあるたずまいと歴史文化があると共に、たくさん魅力ある首里人(すいんちゅ)がいます。この首里かわらばんでは、地域で活躍している人たちを紹介していきます。

特集
インタビュー
城間びんがた工房
十五代目 城間 栄順さん



城間栄順さん

鮮やかな色彩と独特の文様が特徴の沖縄を代表する染物「紅型」。沖縄戦で失われつつあった伝統の復興に尽力した父・城間栄喜氏にまつわるお話や現在の制作活動について伺いました。

城間びんがたを訪れて目を引くのが、工房を守るようにそびえ立つたくさんのフクギ。

栄喜氏は、戦後、紅型復興の再起を誓い、黄色の染料となるフクギの種を蒔くことから始めたと言います。戦争で道具や材料、資料の多くを失い、米軍の廃品から道具や型紙、染め生地を作り、記憶だけを頼りに制作を再開しました。

「生活が苦しく食べるだけで精一杯で、まだ十二、三歳だった私も、家事はもちろぬ、廃品収集から水洗いの準備、薪集めと、家業の手伝いは何でもやりました。昔は、この辺りのカ-の水はとてもきれいでね。沖縄の日照を受けた湧き水で染める紅型は、とても色鮮やかに感じたものです」手間ひまを惜しまず、ただひたすら紅型制作に明け暮れる父の傍らで、栄喜氏は紅型を学んできました。

時には首里から安謝まで歩いて釣りに行くことも。「今でこそ趣味の釣りも、当時は生きていくための術でした。すくいあげた魚の色の美しさが目に焼き付いて離れなかった」沖縄の海や魚などのモチーフを新たな図案として取入れた栄喜氏同様、栄順氏の作品に海の素材が多いのも当時の印象が強いと言います。

その後、栄喜氏は画家の有志らと共に琉球紅型技術保存会を設立し、本格的な復興活動を行っていくこととなります。

伝統工芸を継いでいくには、後継者を育て、商品としての価値を高めなければ過去の衰退を繰り返してしまふ。栄順氏は、伝統的な技法を守



紅型の全行程を一貫して行える工房の幅は約16m。一反の布を広げて作業ができる。

城間びんがた工房
那覇市首里山川町1-1-33
電話 〇九八八五九七六一

●編集後記●

今号よりページ数を増やしリニューアル致しました。文字拡大も取入れ、より読みやすい紙面になったことと思います。今後も、首里で愛される地域情報紙になるよう内容の充実にも努めてまいります。新しくなった首里かわらばんをどうぞ宜しくお願い致します。

※編集会議では、首里地域の皆さまのホットな情報提供をお待ちしております

バックナンバーのお知らせ

- 首里かわらばんのバックナンバーがホームページでご覧になれます。
- 首里地域情報ポータルサイト「e首里ドットコム」
URL http://www.e-sui.com/
- 1号 石畳のまち首里金城町 ■2号 城下町のメインストリート龍潭通り ■3号 首里の旗頭
- 4号 首里の伝統菓子 ■5号 首里三番のまちづくり ■6号 備後駅周辺エリア
- 7号 琉球の宮廷音楽 ■8号 真和志今昔 ■9号 粟水川「水」への感謝でつながる絆

■お問合せ
事務局
TEL 886-8615

首里かわらばん 第10号

2008年 8月発行
編集
首里かわらばん編集会議
発行/事務局
NPO 法人 首里まちづくり研究会
903-0812 那覇市首里当蔵町2-13
TEL098-886-8615 FAX098-886-1569
http://happy.ap.teacup.com/suimachi/
協力
78 タイフーン fm (周波数 78.0MHz)
903-0824 那覇市首里池端町34 2F
TEL050-3539-1178 FAX098-882-2400
http://www.fmnaha.jp/
タイトルデザイン 石原左内